



2025年(令和7年)

11月15日(土)

第1420号

毎月15日発行

開屏新系

発行所
株式会社園芸新聞社
〒180-0001 武藏野市
吉祥寺北町4-7-13
電話 0422(51)8953
FAX 0422(55)7187
発行人 前田彰宏
購読料 1ヵ年 5,400円
振替 00130-2-85300



稻山光男氏（中央）の講習を受講した研修生4名と、山口仁司氏（右端）、JAさが担当者（左の2名）

地域のベテラン農家やOB、JA職員、行政関係者が一體となって支援を受け、研修終了後も相談・助言を受ける。卒業後は地域内で独立就農を目指す人が多く、これまでの修了生が新たな生産グループを形成して交流がある。

良町で構成」が開設されると生産者講師に就任し、生産技術や農業経営の実践指導を行つていている。基礎から応用まで丁寧な指導を続け、「今の農家は猛暑や資材費高騰で苦労も多いけれども、それでも若い人たちは夢を持つて頑張っている。キユウリ栽培をしてよかつたと思つてもらえるよう支えたい」と語る姿勢に、研修生たちは日々刺激を受けている。山口さんの教えは技術にとどまらず、「観察・考査・継続」の大切さを説く人間教育である。

佐賀県の農業者育成拠点として注目を集め
る「JASAがトレーニングファーム」。キュ
ウリの研修生4名が10月下旬に関東を訪れ、
全国有数の産地で栽培技術や経営の考え方を
学んだ。現場の空氣に触れ、自らの當農に生
かす知識と意欲を深めた。今回の研修は就農
を目前に控えた研修生にとって、実践力を磨
く絶好の機会となつた。

ソウを対象に、環境制御などの最新設備を備えたハウスで実習を行つてゐる。農業未経験者でも、生産から経営まで段階的に学べるよう、座学と実践を組み合わせたカリキュラムを採用しており、栽培を三百種類ほど行つて、全国からも注目され
廣がりつつある。

山口仁司氏が研修生を指導

佐賀のキュウウリは私たちが繋ぐ JAさがトレーニングファーム研修生 関東の研修で知見と意欲を深める

玉県久喜市内で日本の「えること」は多いが、やはりがいを感じる毎日で、「キユウリ栽培技術の第一人者である稻山光男氏による講習を受講した。整枝管理や温度管理、灌水の基本など、初心者にもわかりやすい基礎講義が行われ、研修生は熱心に耳を傾ける。残りの研修期間も

今回の研修では国を代表する「一人の「キユウリの神様」」が顔農家出身の田中さんは、合わせる貴重な機会もなった。植物と真と呼ばれる山口先生の、もとに学ぶことが誇り。毎日が充実していだ経験は、今後の當研究の基礎となるだろう。



ハウスに必要な性能を高次元で長期にわたり発揮。作物づくりに専念できるMKVアドバンスの耐久無滴農POフィルム「ダイヤスター」シリーズ。全国の生産者の皆さまに長年ご愛顧いただいている5年耐久「ダイヤスター」に加え、8年耐久「スーパーダイヤスター」も発売以来7年を経過し、ご好評をいただいております。

耐久無滴農POフィルム 8年耐久 **スーパークリヤスター™**

耐久無滴農POフィルム

タツイヤスターTM

5年耐久

- 抜群のスッキリ透明感
- しなやかな強さを実現
- フィルム展張も作業しやすいフィルム

MKVアドバンス株式会社

〒101-0024 東京都千代田区神田和泉町1-9-2 住友不動産神田和泉町ビル
TEL 03-4334-4636



当社ホームページ

微生物で土を甦らせる

太陽油化 東京8

全野研長崎大会にも出展して
注目を集めた「東京8」

全国で土壤疲労や連作障害が深刻化する中、産廃処理・環境ソリューション事業を手がける(株)太陽油化(東京都板橋区)が開発した微生物植物活性剤「東京8(トウキヨウ・エイト)」が注目されている。汚泥処理の現場で培った微生物技術を農業に応用し、1,500種類以上の有用菌が土壤中の有機物を分解、団粒構造を促して根張りと地力を高める「バクテリア肥料」である。化学肥料に頼らず、微生物の力で土を再生させる新しいアプローチが、施設園芸を中心に広がりつつある。

地力回復に貢献する植物活性剤 太陽油化は1963年に東京都の廃油回収業として創業。ビルや飲食店から出る汚泥や廃油を微生物で処理し、再資源化する「都市型リサイクル」の先駆けである。その過程で培つたバクテリア培養技術を農業に応用したのが「東京8」だ。

「東京8」は液体タイプの特殊肥料(東京都家保衛肥第168号)で、有機JAS適し、再び土壌に還すると微生物を分離・精製

いえ、発想は、まさに選択技術の実践であり、同社の理念「循環と再生」を体現している。こうした環境配慮型の取組みが評価され、2023年には「第6回ジャパンSDGsアワード」特別賞を受賞。現在はアフリカや東南アジアでも現地生産を展開し、循環型モーデルの構築を進めている。

佐賀県のトマト農家では、青枯病が多発する圃場で「東京8」を導入した。2021年には670株中約200株が発病していたが、翌年に定植前3ℓ／10a、以後月1回2ℓ／10aを灌水チューブで施用した結果、発病は20～30株に減少した。根域で有用菌が優占し、病原菌の増殖を抑えられたとみられる。

さらに残渣分解が進むことで病害の温床を断ち、収穫後の圃場処理でも効果を發揮。葉

・主成分は窒素全量0.00067%、リン酸全量0.00125%、カリ全量0.00122%、水分99.97%、CN比1.9。経験をクリアした安全設計で無臭・無害のため施設園芸にも適する。

合資材（JASOM-220401）として登録されている。プロテオバクテリア、アクリノバクテリア、ファミリクテスなどの菌群が酵素を生成し、土壤中の有機物を植物が吸収しやすい形に分解する。これにより微生物バランスが整い、養分循環が活性化。根の発達や吸収力、耐病性の向上につながる。

面散布にも対応し、微生物が葉面に定着して光合効率や耐暑性を高める作用も確認されている。夏場の高温ストレスや日照不足時の生育維持にも寄与する

にもつながる。
トマトのほか、イチゴ、ピーマン、メロン、茶、米など多くの作物で効果が確認されており、同社は「5年以内に全国の土壤活性ネットワークを構築した

今冬の天候 暖冬傾向だが 雪害の備えを

候見通し

今冬の天候見通し

候見通し

海側では冬型の気圧配置が一時的に強まるところもあり、降雪量は年並みかやや多めとなる地域も想定されていく。北海道・北陸・山陰の沿岸部では、短期間に雪が集中するケンスがあるため、ハウスや施設の耐雪対策を怠らないことが望ましい。

太平洋側や内陸部では晴天日が多く、降水量はおおむね平年並み。気温は12月から1月にかけてやや高めで推移し、冬の入りが遅れる可能性もある。2月以降は平年並み程度に戻る見通しだが、寒暖の振れ幅が大きく、急な冷え込みに注意が必要だ。

今冬の天

候見通し

冬への気象変化へ十分な配慮農業面への影響としては、暖冬傾向による「凍霜雪弾リスクの軽減」が期待される一方、春先の融雪・地温上昇が早まることによる作業スケジュールの変動が懸念される。特に育苗・定植期が前倒しどころの可能性があるため、苗の生育ステージや床土温度の管理を早めに整えることが重要だ。

施設園芸では、昼間の気温上昇に伴う結露や夜間冷却による湿度急変が起きやすくなれば、暖房を強めすぎず、換気と保温のバランスをとることが求められる。また、土壤凍結の深度が浅くなる見通しから、排水・融解水の流路を点検し、過湿による根傷みを防ぎたい。

今冬は「記録的大雪」までは予測されていないが、湿雪が多くなる恐れがあり、除雪体制は例年通り確保しておこうと安心である。

農作業計画や資材搬入の面では、雪解けや地面の緩みが早まる可能性もある。肥料・床土の被覆資材などの準備を一段早めに進めておくことで、春先の作業連動化を実現する。

年明けは西風の次第第波が強くなる可能性がある。生みを基としたは「平成26年冬季天候見通し」として、この備えを怠らぬよう、季節予定期を更新していく。

The diagram illustrates the effect of Earth's rotation on atmospheric pressure. It shows a cross-section of the Northern Hemisphere with a low-pressure area at the equator and a high-pressure area at 60°N. The Coriolis force causes air to curve to the right, creating a clockwise circulation pattern. A dashed line indicates the 180° meridian. Below the diagram, a box labeled '平年のシベリア高気圧' (Average Siberian High Pressure) is shown.

